

# 「遺伝」のイメージ：アンケート調査から

松本 正<sup>1</sup>・森藤香奈子<sup>2</sup>・佐々木規子<sup>3</sup>・荒木 美幸<sup>4</sup>  
山崎真紀子<sup>1</sup>、宮原 春美<sup>1</sup>、近藤 達郎<sup>2</sup>

長崎大学医学部保健学科紀要 17(2): 17-20, 2004

**Key Words** : 遺伝, イメージ, アンケート調査

## はじめに

遺伝医学の最近の進歩は目覚ましいものがあり、特にヒトゲノム計画が終了したことにより、ポストゲノム時代の医療は大変革が期待されている。例えば遺伝性疾患の診断や生活習慣病・がんなどの疾患感受性検査は飛躍的に進むと考えられ、それに関連して遺伝カウンセリングの需要も増大すると考えられる。一方では、高校生物の遺伝に関する記載は減少傾向にあり<sup>1)</sup>、また地域住民と接触する第一線にいる保健師は遺伝に関する知識の不足を認識していることなど<sup>2)</sup>、遺伝学の進歩と一般市民とのギャップは益々大きくなるのが危惧される。

このような意味で一般市民に対する遺伝教育が必要と考えられるが、日本の文化・風土は欧米諸国とは異なり、恥の文化であるとか、「遺伝」を隠蔽したり、差別する傾向があるとも言われている。このため、まず「遺伝」に対してどのようなイメージを持っているかに関するアンケート調査を行ったので報告する。

## 対象および方法

長崎大学の学生106名（医学科2年生87名、医療短大助産学専攻学生19名）を対象とした。質問項目は表1に示す。結果は $\chi^2$ 検定で有意差を判定した。

表1. 「遺伝」についてのアンケート

1. 年齢;10代 ( ) 20代 ( ) 30代 ( ) 40代 ( ) 50代 ( )
2. 性;女性 ( ) 男性 ( )
3. あなたは高校時代に生物の授業を受けましたか? はい ( ) いいえ ( )
4. あなたの周囲に遺伝性の病気(染色体異常を含む)の方がおられますか? いる ( ) いない ( )
5. 遺伝性の病気は稀なもので、自分にはほとんど関係がないと思いますか? はい ( ) いいえ ( )
6. 長崎県では保健所・保健センターを介した遺伝カウンセリング(相談)システムがあることをご存じですか? 知っている ( ) 知らない ( )
7. 出生前診断という言葉聞いたことがありますか? ある ( ) ない ( )
8. 出生前診断を行うことについて 推進するべき ( ) 行うべきではない ( ) 場合による ( ) わからない ( ) その他 ( )
9. 「遺伝」についてのイメージ(複数回答可) 暗い ( ) 特殊 ( ) 宿命的 ( ) 秘密 ( ) 恥 ( ) 運 ( ) 罪・罰 ( ) 神の定め ( ) 個人の問題 ( ) 家族の問題 ( ) 変化し得る ( ) 乗り越えることができる ( ) 人間の幸福に役立つ ( ) その人らしさ ( ) その他 ( )

1 長崎大学医学部保健学科

2 長崎大学医学部・歯学部附属病院

3 信州大学医学部大学院

結 果

(1) 質問項目 1～8 について (表 2)

年齢は18歳以上で多くは20歳代前半と考えられる。性別では女性が56%, 男性が44%であった。

高校時代に生物を選択したものは女性が76%, 男性が38%であった。全体では59%が生物を選択していた。

周囲に遺伝性疾患の人がいると答えたものは全体では18%であった。

遺伝性疾患は自分とはほとんど関係ないと答えたものは全体で21%であった。しかし、前項で周囲に遺伝性疾患の人がいるとしたものは全員「いいえ」の回答であった。

遺伝性疾患の診断に関連して、長崎県の遺伝カウンセリング体制を知っていますかとの問いに対しては知っていると答えたものは全体で20%であったが、男性ではわずか2%であった。

出生前診断という言葉に対する認知度は高く、ほぼ100%であったが、診断を行うことに関しては、推進するべきと答えたものは8%, 行うべきではないとするものは6%, 約7割の人は場合によるとの回答であった。周囲に遺伝性疾患の人がいる場合には、推進するべきとの回答は16%と高い傾向であったが有意差はなかった。

(2) 「遺伝」についてのイメージ (表 3)

全体として10%以上の回答があった項目は「宿命的」,

表 3. 「遺伝」についてのイメージ (複数回答; 総数274)

	女	男	計	遺伝性疾患 <sup>#</sup>
暗い	2(1)	1(1)	3(1)	0
特殊	13(8)	13(12)	26(9)	4(7)
宿命的	23(14)	22(20)	45(16)	10(18)
秘密	8(5)	4(4)	12(4)	0(0)*
恥	0	0	0	0
罪・罰	0	0	0	0
運	12(7)	6(6)	18(7)	3(5)
神の定め	7(4)	7(6)	14(5)	4(7)
個人の問題	10(6)	8(7)	18(7)	2(4)
家族の問題	27(16)	10(9)	37(14)	5(9)
変化し得る	15(9)	12(11)	27(10)	3(5)
乗り越えられる	8(5)	4(4)	12(4)	6(11)*
幸福に役立つ	8(5)	5(5)	13(5)	5(9)
その人らしさ	28(17)	16(15)	44(16)	14(25)*
その他	4(2)	1(1)	5(2)	1(2)
否定的	65(39)	53(49)	118(43)	21(37)
肯定的	59(36)	37(34)	96(35)	28(49)*

( ) 内は%。#は周囲に遺伝性疾患患者がいる群。\*の項目は有意差あり。

「変化し得る」, 「その人らしさ」, 「家族の問題」であった。「罪・罰」, 「恥」と答えたものはいなかった。

暗い, 特殊, 宿命的, 秘密, 運, 神の定め, 罪・罰, 恥の8項目をまとめて「否定的」イメージ, 変化し得る,

表 2. 遺伝アンケート結果 1

年齢	性		高校時代の生物*			
	男	女	女	男	計	
10代	26	47	あり	45(76)	18(38)	63(59)
20代	79	59	なし	14(24)	29(52)	43(41)
30代	1					

  

周囲の遺伝性疾患	周囲の遺伝性疾患			遺伝性疾患は自分とは無関係				
	女	男	計	女	男	計	遺伝性疾患**	
あり	11	8	19(18)	はい	12	10	22(21)	0(0)
なし	47	39	86(81)	いいえ	47	37	84(79)	19(100)
無回答	1							

  

長崎県の遺伝カウンセリング体制	長崎県の遺伝カウンセリング体制		
	女	男	計
知っている	20(34)	1(2)	21(20)
知らない	39(66)	46(98)	85(80)

  

出生前診断の施行	出生前診断の施行			遺伝性疾患 <sup>#</sup>
	女	男	計	
肯定的	4(7)	5(11)	9(8)	3(16)
否定的	3(5)	2(4)	5(5)	0
場合による	45(76)	30(64)	75(71)	14(74)
分からない	5(8)	10(21)	15(14)	2(10)
その他	2(3)	0	2(2)	0

( ) 内は%。#は周囲に遺伝性疾患患者がいる群。\*の項目は有意差あり。

乗り越えられる、幸福に役立つ、その人らしさの4項目をまとめて「肯定的」イメージと考えると、全体としては否定的イメージがやや多いという結果であった。

#### 考 察

主に20歳代男女の遺伝に関連する意識を調査した。高校時代に生物を選択したものは女性に多いが、生物選択の有無と他の項目との関連は見られなかった。

長崎県の遺伝カウンセリング体制の認知度は低く、これは周囲に遺伝性疾患の人がいる場合も同様であり、さらなる広報活動の必要性を痛感した。

遺伝についてのイメージでは全体として否定的イメージがやや多く、男性でより多い傾向が見られた。「遺伝」という言葉が「遺伝病」に直結するか否かは今回の調査では断言はできないが、「遺伝病」に対する意識としては恐怖・憐憫・嫌悪などのイメージが多いという調査結果もあり<sup>3)</sup>、未だ「遺伝」に対しては全体として否定的なイメージが多く、今後の正しい遺伝教育が必要と考えられる。

日本は恥の文化であるという言葉があるが、今回の調査では「遺伝」には「恥」というイメージは伴っていない。これは今回の対象年齢が20歳代前半ということに関わる可能性はあるが、予備的な40～50歳代の調査でも「恥」という回答はなかった。また、「罪・罰」という回答もなかったが、これは日本人の宗教意識との関連があ

るかもしれない。

遺伝に関する意識は周囲に遺伝性疾患患者がいるか否かにより、即ち、遺伝に対して意識が向かっているか否かにより影響を受けている。周囲に遺伝性疾患あり群は、遺伝性疾患は自分とは無関係ではないと考え、「遺伝」イメージでは、「宿命的」であり、「変化し得る」ことはあまりなくても、それは「秘密」ではなく、「その人らしさ」という個性として受容し、「乗り越えられる」と希望を持つようとしており、肯定的イメージが強くなっていると考えられる。

今後、医学関係以外の学生、より年長の年齢層を対象を拡大して調査を行いたい。

#### 文 献

- 1) 池内達郎：高校「生物」における問題点(3) 一般教養としての“ヒトの遺伝”. 遺伝, 57: 54-60, 2003.
- 2) Matsumoto T, Kondoh T, Niikawa N, Maeda N, Ishimaru T: A genetic counseling system in Nagasaki prefecture: The course and current status of the genetic counseling unit in Nagasaki university hospital. Acta Med Nagasaki, 46: 7-10, 2001.
- 3) 長谷川知子, 五十嵐健康: イメージテストを用いた「遺伝病」に対する意識調査. 東女子医大誌, 63: 94-101, 1993.

松本 正 他

## Image of Genetics

Tadashi MATSUMOTO, Kanako MORIFUJI, Noriko SASAKI, Miyuki ARAKI,  
Makiko YAMASAKI, Harumi MIYAHARA, Tatsuro KONDOH

Bull. Nagasaki Univ. Sch. Health Sci. 17(2): 17-20, 2004